

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL  
**63**

2021

## チーム医療を強化し、質の高い医療を提供

DOCTOR'S VOICE 01 中国四国エリア最初の「肥満症外科手術認定施設」

全人的なチーム医療が拓く、外科手術による新治療 糖尿病をはじめとする代謝疾患が外科手術で治る時代へ

DOCTOR'S VOICE 02 患者さんもチーム医療の一員である理想の移植医療をするために

DOCTOR'S VOICE 03 輸血と自己血採取を安全で正確に提供



2020年10月、日本肥満症治療学会による認定

## 中国四国エリア最初の「肥満症外科手術認定施設」

消化管・腫瘍外科学講座 教授 渡部祐司

地域生活習慣病・内分泌学講座 教授 松浦文三

### 全人的なチーム医療が拓く、外科手術による新治療

肥満症外科手術認定基準の2番目に挙げられているように、実施施設にはチームの総合力が問われています。肥満というのは症状があるだけでなく、背後に様々な悩みと葛藤を抱えている方が多くおられます。仕事を続けられない、やむなく辞職せざるを得ない…これらにも対応できるよう精神科の先生やカウンセラーにもチームに入つてもらい、更に経済的不安がある方の相談には事務方が対応する体制です。また高度肥満は人工（膝）関節手術のための体重減少や、不妊症治療にも関与しているため整形外科や婦人科とも連携しています。このように患者さんの様々で複雑な問題に対応できるよう、当院では多様な専門スタッフでチームを形成しています。

患者さんは愛媛県内だけでなく県外からも来られています。患者さんが地元に戻つても当院と同レベルでのリハビリや栄養管理を継続できることが必要です。院内のチーム編成に加えて、地域の先生方を含めた地域連携チームの拡充も図りたいと考えています。



#### PROFILE

わたなべゆうじ◎低侵襲・がん治療センター長、アメリカでの研修後、1991年より内視鏡外科手術を当院に導入し、現在内視鏡外科手術やロボット手術の指導と普及に尽力している。



#### PROFILE

まつうらぶんぞう◎1984年愛媛大学医学部医学科卒業。1985年～89年は済生会小田病院に勤務。1996年から当院第三内科に勤務。専門領域は内分泌、代謝、消化器。趣味は歴史小説の読書。2010年より現職。

### 糖尿病をはじめとする代謝疾患が外科手術で治る時代へ

2016年12月に当院で発足した肥満外科治療ワーキンググループでは渡部教授は外科医師として、私は内科医師としての立場で発言します。また日本肥満学会及び日本肥満症治療学会に関わっていたのが私だけということもあり、学会の最新情報をメンバー全員で共有することに努めています。渡部教授も述べていますが肥満症外科手術は手術で全てが解決するわけではなく、その前後の食事管理やリハビリのほか、リバウンドや栄養障害、精神疾患発症などの可能性が報告されており、内科への通院が必要となっています。現在、手術により糖尿病をはじめとした代謝疾患がどう改善するかを解析しています。糖尿病初期段階の患者さんでインスリン分泌量が保たれていれば、手術によって薬が必要なくなる寛解という状態になることがわかつてきました。糖尿病などの代謝疾患が手術で治るという時代も来つつあり、今後は肥満合併の糖尿病の患者さんに積極的に提案していきたいと考えています。また市民への啓発活動や医師向けの情報発信も引き続き行っています。



伊藤裕: 日本臨牀, 61 (10), 1837-1843, 2003

#### 安全で有効な総合的肥満症治療

高度肥満患者に対する手術はリスクが高いため、2016年に日本肥満症治療学会が定めた認定制度が求める、1) 安全な手術を施行できる技術力、2) チーム力、3) データ登録 義務等が問われる厳しい基準が要求されます。本院では、外科、内科、麻酔科、精神科、病棟・手術部看護師、管理栄養士、事務からなる多職種がチームをつくり、2017年1月に第1例目の手術を施行しました。

※高度肥満とは体格指数 (BMI) が35以上を指します。



保険診療でできる腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状胃切除術)を第1選択として施行。

## 造血細胞移植センター紹介

## 患者さんもチーム医療の一員である理想の移植医療をするために

造血細胞移植センター センター長

谷本一史

造血細胞移植センターでは自己及び同種の造血幹細胞移植を行っています。造血幹細胞移植は難治性の造血器悪性腫瘍や遺伝疾患などに対する有用な治療であり、近年は移植治療の患者数・適応疾患とも増加傾向にあります。自己以外の同種移植に関しては、血縁者間をはじめ、骨髄バンクからの非血縁者間移植と臍帯血バンクからの臍帯血移植も行います。当科は造血細胞移植学会の非血縁者間造血細胞移植認定診療科の認定と、日本骨髄バンクの骨髄採取施設にも認定されています。また2020年4月に無菌室が2床から6床に増え、無菌室のスペースが広がりました。それに合わせて移植数も増やせるよう、移植に必要な環境の拡充も行っています。

また多方面の大学・病院との協力で、造血器腫瘍における遺伝子検査が早期に行えるようになり、移植治療の適応について、より細かく検討することが可能となりました。更に半合致移植など新しい移植法が開発される中、私たちは多岐にわたる移植をスムーズに導入し、患者さんも含めたチーム医療を充実すべく日々診療を行っています。

**PROFILE**

たにもとかずし◎1999年愛媛大学医学部卒業後、当院や愛媛県立中央病院にて勤務。2009年の愛媛大学大学院修了後、アメリカ合衆国国立衛生研究所にて客員研究員となる。2013年に当院血液・免疫・感染症内科講座助教となり、2018年8月より現職。

## 輸血・細胞治療部紹介

## 輸血と自己血採取を安全で正確に提供

輸血・細胞治療部 部長

山之内 純

輸血・細胞治療部では、輸血に関する業務を一元管理しており、検査部門と治療部門に大きく分かれます。検査部門では臨床検査技師が、輸血検査と呼ばれる血液型検査や交差適合試験と、輸血製剤の管理・供給を行っています。治療部門では、移植や手術に必要な末梢血幹細胞や自己血を採取する業務と、各診療科の医師からの輸血コンサルタント業務を行います。輸血というと簡単なことのように聞こえますが、血液は臓器の一種であり「輸血とは一つの移植」です。当院では年間5,000件の輸血オーダーに加え、年間300件の自己血採取と20件の末梢血幹細胞採取を行っています。多くの輸血業務を担当するため、臨床検査技師の業務量は増加しています。どの業務にも正確さとスピードが求められるので、ヒューマンエラーを防ぐ仕組みを構築し更新するのは私の役割の1つです。

輸血の副作用を防ぐ手段としては自己血採取という方法があります。手術前に自分の血液を採取保存し、手術の際に使用します。採取した血液は約1ヶ月ほど保存できます。自己血採取には年齢制限がなく安全性も高い方法であることを知ってほしいです。

**PROFILE**

やまのうちじゅん◎1995年愛媛大学医学部卒業後、第一内科に入局。2003年大学院卒業後、アメリカ合衆国スクリプス研究所とカリフォルニア大学サンディエゴ校で研究に従事。2019年10月から現職。専門は血液内科学、血栓止血学。趣味はスポーツ観戦。

# 愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

## 弦楽コンサートを開催



令和2年10月20日(火)、「\*（アイ）アンサンブル」(ヴァイオリンなどの五重奏)を今回、無観客で開催しました。弦楽コンサートは、患者さんとそのご家族等に音楽を通じて楽しいひと時を目的として予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面開催は中止され、演奏会を撮影しました。この様子は外来ホールのモニターにて放映され、希望のある病棟に対して貸し出しを行います。

医療サービス課 ☎089-960-5182

## 第72回ヘルスアカデミーを開催



令和2年10月4日(日)、第72回ヘルスアカデミー「愛大病院小児総合医療センターの役割」を開催しました。当講演は7名の専門家と1名のセンター看護師によるオムニバス形式の講演で、子どもの丸飲みや虫歯などの身近な症状についての解説から専門的な内容まで幅広く子どもの病気についての講演を行いました。今後も市民の関心の高いテーマを取り上げた市民公開講座を開催します。

医療サービス課 ☎089-960-5182

## 電子カルテリニューアル

昨年11月より、附属病院の電子カルテを更新いたしました。回線の強化などにより使いやすいシステムとなりました。今後も当院では患者さんに還元できるシステム強化に努めます。

## 難病医療

### コーディネーターを増員

当院では2020年7月より、難病医療コーディネーターを2名に増員しました。医療・福祉支援が複合的に必要で、対応が困難な難病を抱える患者さんが、地域で安心して療養生活が送れるよう、医療機関・保健所と連携し支援を行います。これからも、院内外の連携をより一層強化し、患者さんを支援します。

## 肝がん市民公開講座を開催



令和2年10月25日(日)、肝臓について学ぶ市民公開講座が開催され、肝臓専門医5人がアルコールや生活習慣、肝炎ウイルスと肝臓の関係や、肝がんの治療などの講演を行いました。徳本良雄肝疾患診療相談センター長から男女差によるアルコールの付き合い方の違いを認識すること、長期の過度な飲酒が肝がんなどの病気を引き起こす可能性があり、断酒もしくは段階的に飲酒量を減らす必要があることなどを呼びかけました。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5225

## 地域医療連携ネットワーク研究会を開催



令和2年10月24日(土)、第21回愛媛地域医療連携ネットワーク研究会「地域包括ケアとともに歩む」が行われました。本研究会は地域包括ケアを推進するため、医療・保健・福祉が連携し、患者をともに支えるために医療機関・地域の壁を越えて意見交換を行うものです。今回は新型コロナウイルス感染症予防と地域連携をテーマに、専門家が現状と課題について意見交換を行いました。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5225

## 編集後記

明けましておめでとうございます。本号の特集では肥満症外科手術および血液関連の部署、トピックスコーナーではコロナ禍にありながら感染予防対策に万全を期して開催されました企画についてご紹介しております。表紙は2001年に開始され、100例目に到達した生体肝移植の風景です。今回は仕事始め式をご紹介できませんが、本年も様々な話題を取り上げ、ご報告させて頂きます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員会委員長 熊木天児

◎表紙: 生体肝移植の手術風景



# 愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)  
ホームページ <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>